

12月の「どんぐりsカフェ」から フラダンスでコロナに克つ笑顔

12月18日の「どんぐりsカフェ」は、堅い講演形式から一転して、「フラダンスでクリスマスを楽しく！」と題し、ハワイアンムードで一足早いクリスマス気分を楽しんだ=写真。

フラダンスは石尾台を拠点とする「フラベイビー」の踊り手7人とウクレレ演奏の「ミノアカクラブ」の3人の計10人が熱演。「赤ちゃんのころからフラダンスが好き」というチーム名通り、フラダンスを愛する7人がハワイアンの軽快なリズムに乗って11曲を楽しそうに踊り、観客の拍手を浴びた。曲目はクリスマスの



定番である「ホワイトクリスマス」「赤鼻のトナカイ」などのほか、高齢者の観客に合わせ「憧れのハワイ航路」「恋のバカンス」「上を向いて歩こう」など懐メロを織り交ぜし、客席をわかせた。踊りの途中で、フラダンスの動作やしぐさの意味を解説したり、手の動かし方などの実演指導を行い、会場が一体となって盛り上がった。参加者は「初めて身近でフラダンスを見た」「コロナで減入っていたけど、久しぶりに楽しい気分になった」「前にハワイに行った時の心弾むような気分を思い出した」など笑顔で語っていた。
(明賀 雄二)

役員会から (12月18日)

●2月19日「どんぐりsカフェ」、3月26日の部会「魅力ある高森山公園をつくる会」総会、そして5月22日の「どんぐりs総会」の日程がすんなり決まった。しかし、みんなの胸の中にむくむく黒雲のようにわき上がっているのがオミクロン株への不安●新型コロナ禍も感染者が激減し、ようやく世間も落ち着いてきた。だが、欧米をはじめ海外では感染者がまた急増している。頼みのワクチンも効果が薄れているという。とても楽観はできない。「どんぐりs総会」は2年続きの中止で、書面決議となっている。何としても今年は総会を開きたい、というのが一致した思いだ●参加者の皆さんのマスク着用は言うまでもなく、手のアルコール消毒、検温、広めの会場を借りて席の間隔をあけるなど考えられる限りの感染防止対策を検討した。だが、愛知県に緊急事態宣言が出れば即中止となる。これから、感染者数の動向を祈る思いで見つめる日が続く。
(明賀 雄二)

住まい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956 (長谷川)
面接相談会日:1月22日(土) 2月13日(日)
(いずれも13:30~16:00)
会場: 東部ほっとステーション
(サンマルシェ南館1階)

ハート・ほっと・ルーム

日時1月23日(日)、2月27日(日)
(いずれも13:30~17:00)
会場: 東部ほっとステーション
参加費: 無料
連絡先: ☎090-6330-4393(浪)

「紅葉を見よう会」を振り返って 自然観察会の要望目立つ

第2回「高森山で紅葉を見よう会」（11月20日）は、晴天のもと78名の参加を得ました＝**写真**。これに先立ち、公募した親子で50枚の樹名板を作っていたが、各々の木かけましたが、どんぐりs発行の「樹木入門ナビ」と相まって、樹名が分かりやすいと好評でした。

ネイチャーガイドによる案内では一組の人数が多すぎ、8名以下が適当かと思われます。時間は45～90分で長いと感じる方、もっと長くしてなど幼児や高齢者が一緒での案内の難しさを感じました。高森山は標高200m余りですが、中には山に登ると思わずに参加された方もいらっしやいました。散策後の4種のアクティビティ

私の朝・昼・晩

税金の話

明けましておめでとうございます。来年度の予算案は107兆円を超え、借金財政状況は相も変わらずですね。今後どうなるのでしょうか？ 大変心配です。収入については余り話題になりませんが、来年度は67兆円を超えるようです。報道でもそこまでですね。収入の内容が議論されることも少ないです。

1990年の税収は、60.1兆円、2020年の税収は、60.8兆円。30年間の総額は変わらないのですが、内容は全く違います。法人税は30.6兆円から18.5兆円の4割減、所得税（収入の多い人）43.3兆円から31.6兆円の3割減、消費税が7.7兆円から34.5兆円となり、その減額分を補填しています。以前のままだと税収は約100兆円に近くになり、いまごろ借金体質を抜け出ているかもしれません。お父さんの借金（国）をお母さん（国債）が補填しているあいだは、まだよいのかもしれませんが、ローンや、サラ金（外国資本）に借りるようになると大変です。

未来を見通した政治家がほとんどいないのが残念です。

（片山 繁行）



（遊び）は楽しんでいただけました。

養楽福祉会「カフェはなもも」さんのご協力で40台の駐車場を確保できました。毎回のアンケートで希望が多いのが自然観察会や野外学習会の開催です。来期は高森山の四季を楽しめる観察会等を企画して応えたいと思っています。

（山口 正恵）

石尾台での自動運転導入計画 4月始動の意向再検討

石尾台の町内会自治会向けに11月、自動運転の導入計画説明会が催された。春日井市都市政策課、名古屋大学協働による昨年からの住民利用の実証運転が終わり、翌年4月から石尾台地区で、まずスタートしたいとの意向。公道を自律走行できる「ゆっくりカート」を走らせ、自宅周辺から近くの病院、スーパー・バス停、知人宅等の近距離移動を担う。車両は電気駆動のヤマハ製、4人乗り、時速約15kmで、地区内停留所100箇所以上、自動運転のレベルは2～3。屋根にレーダーがあり、周囲の物体に反応し子供の飛び出し等には急ブレーキがかかる。

導入計画によると、運営面は、地域住民公募によるNPO法人を設立し独立採算意向だが、石尾台地区に限定なので、収支面で事業性に乏しいため簡単ではなく、導入時期等を含めて再検討することになった。今後、ニュータウンでは、高齢化が一段と進み、免許返上等で足の確保は、喫緊の課題となる。したがって、一地域だけでなく全体の問題として、早急に取り組んでいかなければならない。

（堀内 泰）